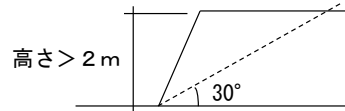


## 千葉県建築基準法施行条例第4条(がけ条例)について

### ■がけの定義

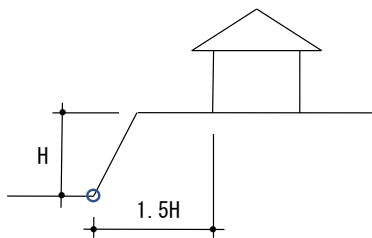
次の二つの条件を満たすもの

- ・地盤面の高低差2mを超える
- ・角度30度を超える

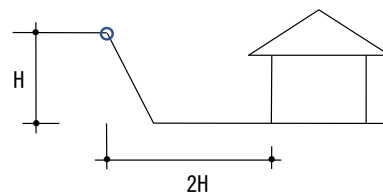


### ■がけに近接する建物の制限(がけからの離隔距離) ※制限を受けずに建築できる要件は次項による

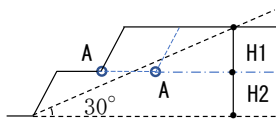
①がけの上に建築物の敷地がある場合



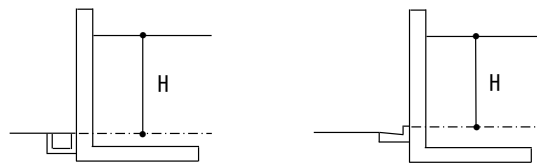
②がけの下に建築物の敷地がある場合



### ■がけの高さ



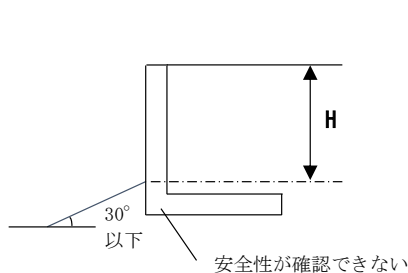
- A点が30°ラインより下となる場合：別々のがけ  
→ がけの高さ H1 及び H2
  - A点が30°ラインより上となる場合：一体のがけ  
→ がけの高さ H1+H2
- ※がけ条例の離隔距離等の検討は別々のがけとしても行うこと



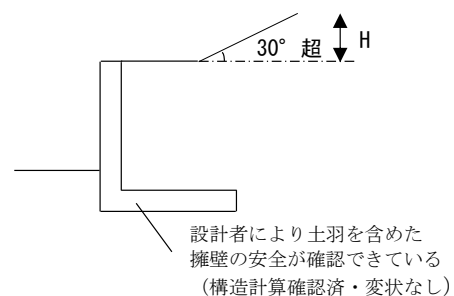
U字溝やL型側溝が前面にある場合の高さの取り方

※がけ(擁壁)の高さは、擁壁の前面と背面の地盤差である

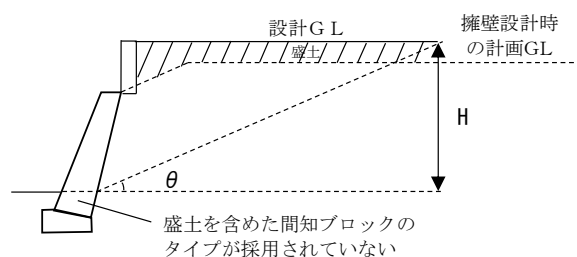
### ■がけの高さの取り方(例)



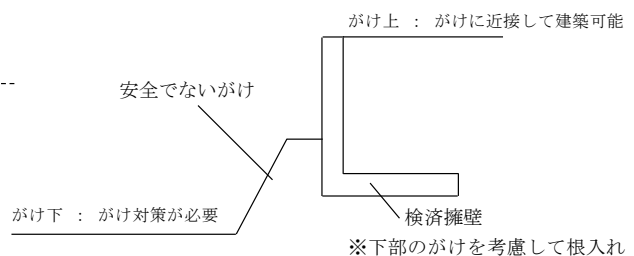
擁壁前面に法面がある場合



2m以下の擁壁が築造されている場合

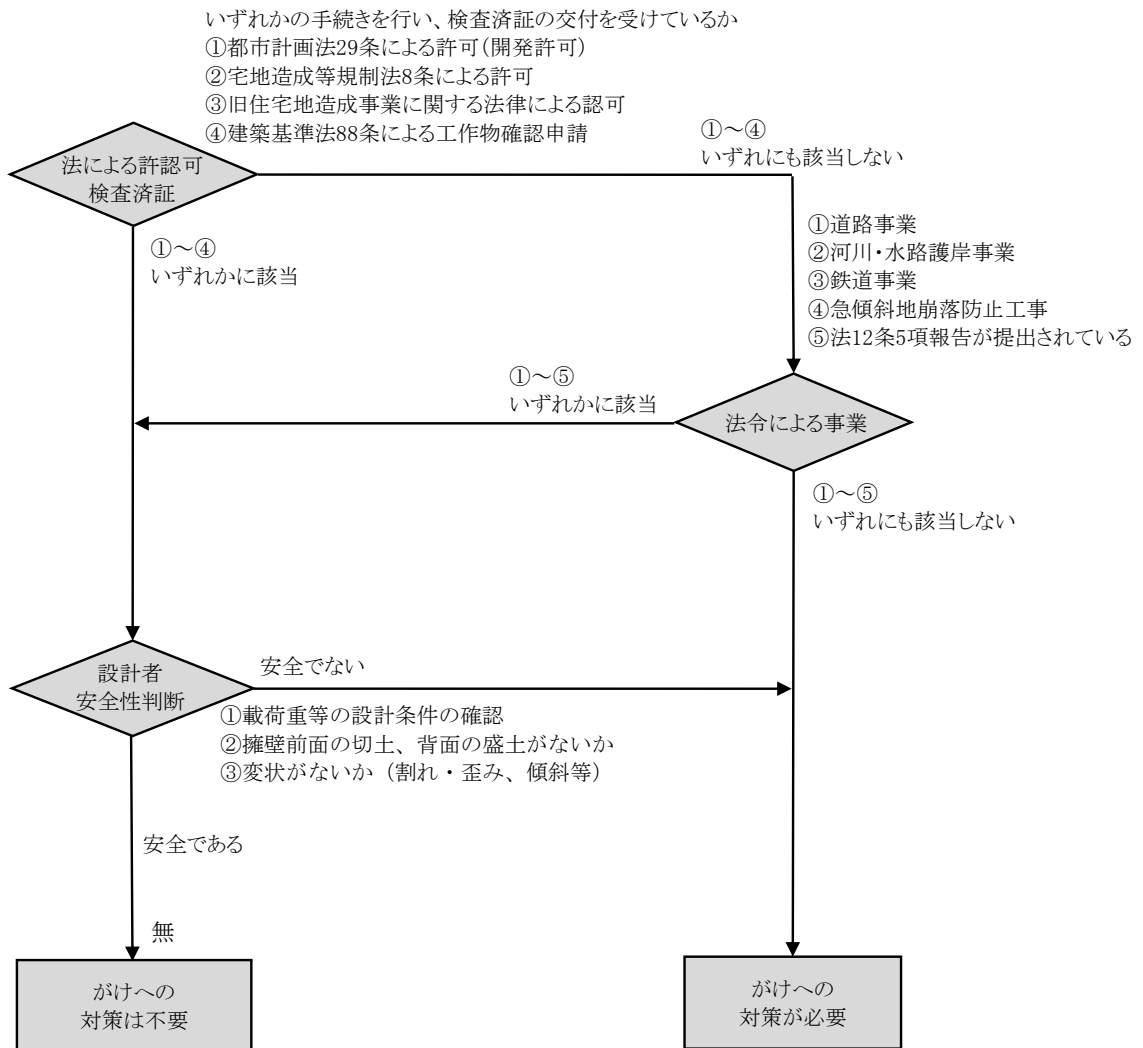


検済擁壁上部に盛土がある場合



上部に安全な擁壁が設置されている場合

既存擁壁が構造耐力上安全と判断できる場合、がけに近接して建築物を建築することができる。  
 なお、構造耐力上、安全な擁壁とみなせる判断基準は以下を参考とし、設計者の責任において判断するものである。

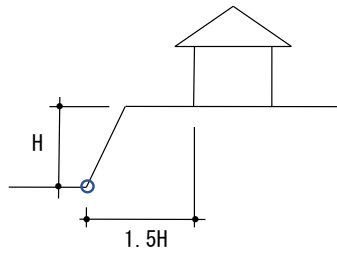


【 対策方法 】 ※詳細は、3ページ参照

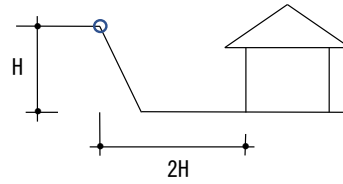
- ①がけから離して建築する (第4条1項本文)
- ②がけの下に建築物を建築する場合
  - A RC造、SRC造でがけの崩落に対して安全な構造とする (第4条1項1号イ)
  - B 高基礎とする (第4条1項1号イ)
  - C 待ち受け擁壁を設置する (第4条1項1号ロ)
- ③がけの上に建築物を建築する場合(第4条1項3号)
  - A 深基礎とする
  - B 杭基礎とする
  - C 地盤改良を行う

## ①がけから離して建築する

A がけの上に建築物の敷地がある場合

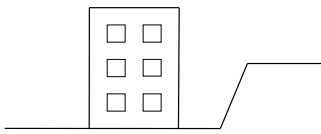


B がけの下に建築物の敷地がある場合



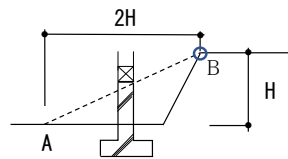
## ②がけの下に建築物を建築する場合

A 鉄筋コンクリート造(SRC造含む)でがけの崩壊に対して安全な構造とする



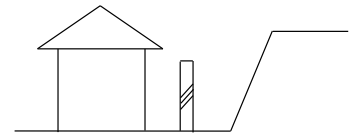
※がけの崩壊による衝撃に対し破壊を生じないこと

B 高基礎とする



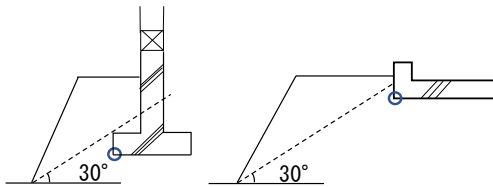
※A, B点のラインより基礎を高くする  
 ※がけの崩壊に対して安全な構造とすること

C 待ち受け擁壁を設置する



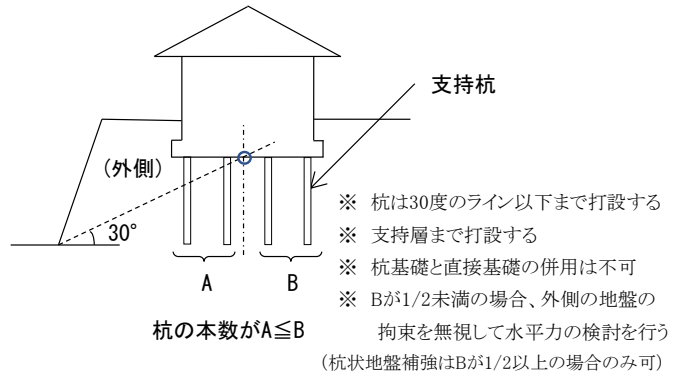
## ③がけの上に建築物を建築する場合

A 深基礎とする



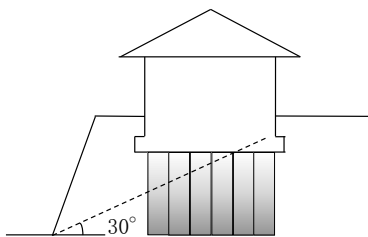
※ 基礎の根入れ深さは30度ライン以深とする

B 杭基礎とする



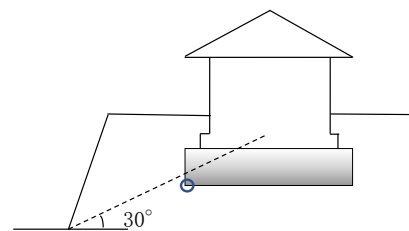
C 地盤改良を行う

深層混合処理工法(柱状改良)



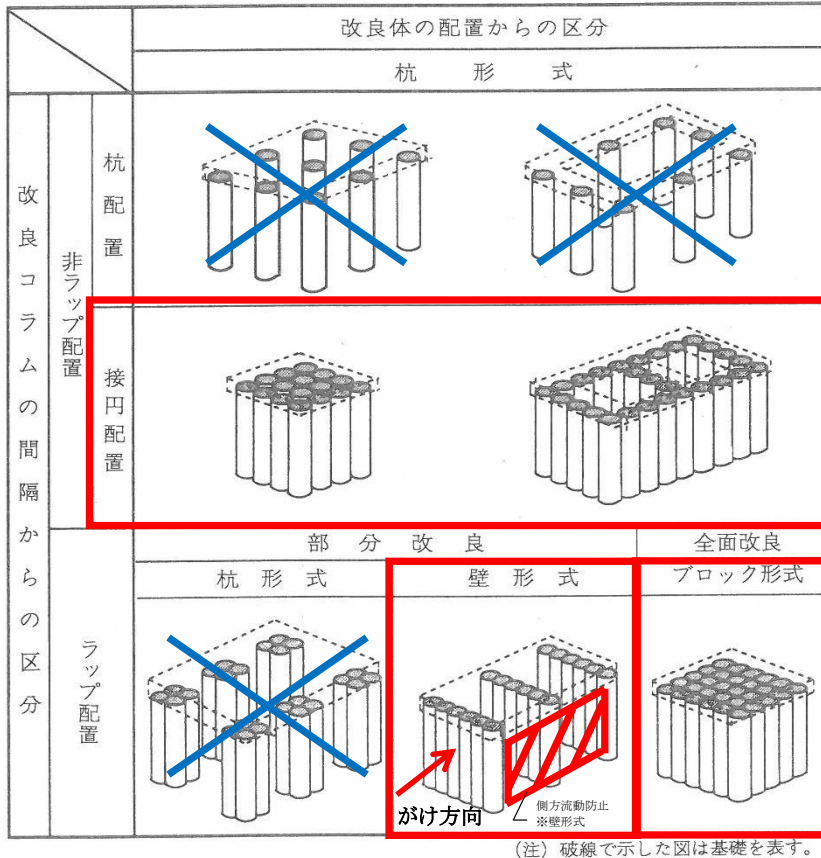
※ 30度のライン以深までセメント系固化材を用いた深層混合処理工法で改良する  
 ※ 接点配置やラップ配置とし、地盤の流出を防ぐ

浅層混合処理工法(表層改良)



※ 30度のライン以深までセメント系固化材を用いた浅層混合処理工法で改良する

深層混合処理工法における改良体の配置例



千葉県建築基準法施行条例(昭和三十六年十一月十日 条例第三十九号)

(がけ付近の建築物の敷地等)

第四条 がけ（地表面が水平面に対し三十度を超える角度をなす硬岩盤（風化の著しいものを除く。）以外の土地で高さ二メートルを超えるものをいう。以下同じ。）の上にあつてはがけの下端から当該がけの高さの一・五倍、がけの下にあつてはがけの上端から当該がけの高さの二倍に相当する距離以内の場所に居室を有する建築物を建築してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

一 がけの下に建築物を建築する場合において、次のいずれかに該当するとき。

イ 建築物の外壁及び構造耐力上主要な部分（がけの崩壊による衝撃を受けるおそれのない部分を除く。）を鉄筋コンクリート造（がけの崩壊による衝撃に対し破壊を生じないものに限る。）その他これと同等以上の耐力を有する構造とし、かつ、必要に応じ当該外壁の開口部からの土砂の流入を防止するための有効な壁等を設置するとき。

ロ がけと建築物との間に、がけの崩壊に対して建築物の安全上支障のない塀等が設置されているとき。

二 建築物を建築する場合において、建築物の位置ががけから相当の距離にあり、がけの崩壊に対して安全であるとき。

三 建築物を建築する場合において、構造耐力上安全な擁壁が設置されているとき。

四 建築物を建築する場合において、がけの形状及び土質により、がけの崩壊のおそれがないとき。

2 前項第三号の擁壁は、次の各号に定めるものでなければならない。

一 高さ五メートルを超える擁壁は、鉄筋コンクリート造であること。

二 擁壁の上部の地表面に雨水その他の地表水を排水することができるような排水施設を設けていること。